

エベレスト街道トレッキングにて。

右から2番目の山がエベレスト(8,848m)



Namaste 通信

Vol.2

27年度3次隊

カブレランチョーク郡

土壤保全事務所配属

コミュニティ開発

齋藤小夜里

ネパールのアッチャンマ！ベスト3！

現在、青年海外協力隊としてネパールに派遣されている平成27年度3次隊（任期：2016年1月～2018年1月）の齋藤小夜里です。

今回は、ナマステ通信の第2弾！（そしてラスト！）ネパールに来てアッチャンマ！だった出来事ベスト3と、私の活動についてご紹介したいと思います。ちなみに、「アッチャンマ」とは、日本語で「びっくり」という意味で、秋田弁でいうと、「どでした〜！」という感じでしょうか。

日本とは異なる文化と生活環境に身を置くと、最初は驚くことばかり。もうすっかりネパールに慣れきってしまったところですが、ネパールに来た当初、まさにアッチャンマだった出来事を振り返りながら、ランキング形式でご紹介します！きっとあなたもアッチャンマー！と驚くはず☆

第3位 これを聞かずにはいられないネパール人

あなたもネパールに来ると必ず聞かれるであろう、ネパール人が必ず聞いてくるお決まりの質問があります。これまで何十回、いや、何百回と聞かれた頻出度の高い質問をご紹介します。みなさん、ネパールに来たときには心のご準備を。

・「ご飯たべた？」

これはもはや挨拶です。朝の定番挨拶と言っていいでしょう。

・「結婚してる？」

この質問に続くのは99%このフレーズ→「ネパール人と結婚してネパールに住みなさい！」

・「チャ（ミルクティー）飲んだ？」

これももはや挨拶。午後の定番挨拶と言っていいでしょう。

・「日本のどこに住んでいるの？東京？」

今のところ、「秋田」を知っているネパール人に会ったことがありません。

・「年齢は？学歴は？誰の家に住んでいるの？体重は？」

…個人情報です。（苦笑）



第2位 助け合うネパール人

ネパールに派遣されている多くのボランティアが、交通手段としてローカルバスを利用しています。

ぎゅうぎゅう詰めバスに運よく席に座って乗っていると、立っている乗客から「ちょっとひざに荷物置かせて!」「この荷物持って!」と言われることがあります。

さらには、「うちの子どもをあなたのひざの上に座らせて!」と言われ、どこの誰かも知らない人の子ども（または赤ちゃん）をひざの上にさせることもあります。逆に、私が重い荷物やリュックを背負って立って乗っていると、「荷物を持ちましょうか?」と席に座っているネパール人に言われることもあります。

ネパールの道路状況は決して良いとは言えず、車内は道路の凹凸で大きく揺れることも多々あります。バスの車内も狭く、立って乗っていくのは結構大変です。そんな状況の中で、互いを気遣い合えるネパール人、素敵ではありませんか?

日本で、「自分の荷物（または子ども）をあなたのひざの上に置かせて!」なんて言ったら怒られちゃうかもしれませんね!



第1位 ネパール人の仲良しアピール

とてもフレンドリーな人が多いネパール。たとえ相手が外国人であっても、気軽に話しかけてくれるネパール人がとても多い印象を持っています。そんなネパール人たちの中で生活していると、たまにおどろく光景に出くわします。

先輩隊員の活動現場にお邪魔したときのことです。（左の写真を見てください。）後ろから見知らぬおじいさんが歩いてきました。そのおじいさんは、前を歩いていた先輩隊員に追いつき二人は話を始めました。すると、いつの間にか二人は手をつないでニコニコと歩いていました。

日本人の私から見ると、男性二人が手をつないで歩いている光景に出くわすと「アッチャンマ!」と思ってしまうところですが、ネパールでは、女性はもちろんのこと、男性同士（子どもからおじいさんまで）でさえも、親密になると堂々と手をつないで歩いちゃうんです!

手をつないで楽しそうに歩いている男性2人組を見かけると、今では微笑ましく思ってしまう。このようなスキンシップはもちろんのこと、ネパールでは初対面の人であったとしても、自分よりお父さんくらいの年齢であれば「お父さん」、年下の若い子であれば「弟または妹」などと親しみを込めて気軽に呼びかけます。

人との距離が、日本人と比べるととっても近いネパール人! 他人であっても自分の家族のように優しく接してくれる方がたくさんいる素敵な国です^^



みなさん、いかがでしたか?
「アッチャンマ!」なネパールに
是非遊びに来てください^^

活動のまとめ

長いようであったという間に過ぎ去ってしまったこの2年間。この2年間のまとめとして、これまでの活動について振り返りたいと思います。

私は、「SABIHAA（ネパール語で「村落振興・森林保全事業」の略）」と呼ばれる住民参加型の自然資源管理を目指す事業の普及と定着のため活動を行っています。

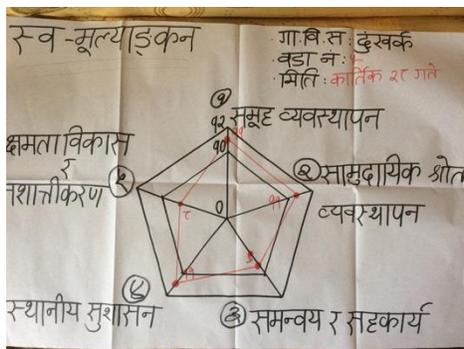
SABIHAA は、JICA がかつて開発した事業モデルで、約20年の歴史がある事業です。現在、ネパール国内の15郡の土壤保全事務所において SABIHAA の複製事業が実施されており、この SABIHAA の普及と定着を目的に、5郡（カブレ郡、パルパ郡、グルミ郡、ダディン郡、タナフ郡）において青年海外協力隊が派遣されています。

SABIHAA は、「計画・実行・モニタリング及び評価」という1サイクルで実施され、私の配属先では、「評価」にあたる“Self-evaluation”というプロセスが実施されていませんでした。この“Self-evaluation”を実施すべく、モチベーターと呼ばれる SABIHAA の普及員と村を巡回しながら Self-evaluation を実施しました。

SABIHAA では、WCC（Ward Coordination Committee）と POWER グループ（Poor Women, Occupational caste in Resource Management）が各ワード（行政単位。日本でいうと町内会のような規模です。）において結成され、WCC は町内の小規模なインフラ整備（飲み水のタンクの設置、歩道の整備など）、そして POWER グループは主に収入向上活動を行っています。

Self-evaluation は、上記の WCC と POWER グループのメンバーが、これまでの自分たちのグループ活動のあり方や運営方法などについて自己評価を行い、自分たちのポテンシャルを発見したり、弱点を把握することで次年度以降の活動に生かすということを目指しています。

これまで幾度となく行ってきた Self-evaluation ですが、今月行ったグループでは、「Self-evaluation をもっと早い時期にやりたかった」という声が聞こえてきたり、グループの結束が強まった雰囲気を感じられたりと、特に収穫の多い Self-evaluation でした。



左の写真のような Spider-web チャートを使って評価していきます。

評価項目は5項目で、①グループ管理、②コミュニティ資源管理、③連携と協力、④ローカル・ガバナンス、⑤能力開発と自発性です。

このチャートを使えば、文字を読めない村の人でも、「全体的に良くないな」「結構いいな!」ということが感覚的にもわかると思います!

モチベーターは、SABIHAA のガイドラインで定められている指標に沿って、ミーティングへの出席状況、各自治体や NGO などの外部機関との連携状況、グループ内のみならずワード全体へ情報共有ができていないか、イニシアティブを持って活動できているか、などといったトピックについて、グループ内で議論を促しながら、メンバー自身が自己評価を行っています。



評価を終え、グループの長所と弱点を把握した後は、WCC のリーダーが、グループの良い点と課題、そして課題に対してどう対処していくべきか、などといったことを全体に共有し、カリキュラムは終了! この結果を踏まえて1年後に同カリキュラムを再度実施し、結果を比較します。

今年の9月2日～4日、SABIHAAの現場の最前線で活躍するモチベーターを対象に、ファシリテーション能力の向上とSABIHAAの課題と経験を共有することを目的とした研修会を実施しました。

モチベーターの主な仕事は、WCCやPOWERグループの活動をサポートすること。ミーティングでは、メンバーの意見をうまく汲み取り、ワード全体に利益のあるような仕事を決定し実行していかねばなりません。そのためは、ファシリテーション能力が必須というわけです。しかし、これまでファシリテーション能力を向上させるような研修の機会はなく、モチベーターのファシリテーション能力にも差が見られることから、今回の研修の開催に至りました。

また、SABIHAAの現場で活動していると、なかなか現場の声を、事業を実施している土壤保全事務所や局へ届けることは大変難しいことだと感じます。そんな状況の中、モチベーターの想い・現場の声を、事業を動かしている省庁へ伝えることができたことはとても良かったと思いました。



また、私の配属されているカブレ郡土壤保全事務所で開催されているSABIHAAは、今年で事業期間の満了となる5年を迎えるに加え、ネパールの行政体制も変化の最中であり、SABIHAA自体もそれに合わせてガイドラインが改編されたところです。

SABIHAAが終了した後、WCCやPOWERはそこで活動を終了させてしまうのか…。それはもったいない！ということで、グループの今後の意向調査と、合わせて、これまでの事業やオフィスのサポート体制はどうだったのか、という事業の評価を問うアンケートを実施しました。

アンケートの結果は、ほぼ全てのグループが新規組合を結成または既存の組合に加入するという方法でこれまでの活動を継続することを望んでおり、事業評価に関しては概ね良い結果を得ることができました。

今後、新たなフィールドでSABIHAAが実施される際には、このアンケート結果が配属先にとって参考となればうれしく思います。

ネパールの山岳農村地域における自然資源管理はとても重要なものだと考えています。ネパールでは、日本では想像もつかないような山の奥や、車が入っていけない地域にも生活を営んでいる人たちが未だ多くいらっしゃいます。そういう場所は、電気、水はもちろん十分ではなく、貯水池をつくるにしても、資材を運ぶのでさえ大変な苦労があります。村の人たちにとっては日常かもしれませんが、限られた自然資源を活用・保護しながら、自然と共存していく大変さや大切さを、私もネパールに来てから身を持って体験できてよかったです。

2年間という限られた時間のなかで、活動としてできたことは少なかったのですが、帰国してからは、ネパールで得た経験をできる限りたくさんの秋田のみなさんへお伝えしたいと考えています。



<おわり>